

## 第 10 回北上川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、●：事務局)

### 1. 北上川水系河川整備計画の進捗状況

#### ●資料-1の説明

- 27 頁の河口砂州について、昔は河口閉塞で困った問題があったが、今の報告では河口砂州があった方が良いというニュアンスで聞かせていただきました。その辺について、どう評価されているのか伺いたい。
- 洪水時については、砂州がフラッシュされ流下能力が確保されるのであれば問題ないと考えており、現在検討中です。
- 長面浦について今後どのように土地利用するのか。
- 河川管理者の事業ではありませんが、宮城県の海岸事業にて、出来るだけ元の通り陸地に戻すという作業がされています。
- 24 頁の和賀川の自然再生について、現在の生育している樹木等を伐採して、再生させることが、事業及び言葉の使い方、方向性が良いのは再検討していただきたい。
- 雫石川合流地点など、市街地に残された最後の緑地であり、自然景観とともに、河川内の動植物の生育に関して、岩手県内や東北地方の分布等、貴重性を踏まえて検討していただきたい。
- 河川管理者の立場からすれば、樹木は河積阻害となる面があるため、ある程度伐採が必要と考えております。景観や自然環境の面からは、お話ししていただいたとおり大局的な視点で、対処しなければならないと考えております。
- 和賀川につきましては、昭和 30 年代の礫河原の再生を目指しておりますが、時間的に長いスパンで考えて行きたいと考えておりますので、ご指導いただけたらと思っております。
- 26 頁の樹木の伐採の仕方について、ある部分だけ虎刈りのように伐採しても疎通能力は多分あがらないのではないかと。間引いた方が流れやすくなるのではないかと。
- 間引き方については検討中でして、伐採後の繁茂状況について確認しているところであります。もっと良い伐採の仕方があれば、ご指導いただければと考えております。
- 9 頁の河川整備の進捗状況について、治水安全度の向上と使った事業費は必ずしも同じではないが、その兼ね合いについて説明願いたい。
- 事業の効果については、3 年に 1 回事業評価を実施している状況であり、そこで、整備の効果、浸水範囲の減少などを示さしていただければと考えております。今後、治水安全度での進捗状況の表現について考えたいと思います。
- 森林の維持、樹木の維持管理については地元の意見、学識経験者の意見、広く意見を聴いて進めて行っていただきたいと思っております。

- 河川の樹木管理と沿川の土地利用のバランスを考慮してデザインして行くことが大事だと思います。そのためには、都市計画と河川管理者等の関係者と共同で議論するような場を設ける必要があると思います。
- 30 頁の塩分の経年的な変化点と 29 頁のヨシの植生の変化について、ヨシが進捗した理由について、専門家はどのように判断しているか紹介いただきたい。
- 東日本大震災で 70cm 地盤沈下しましたが、震災後合計 30cm ぐらい隆起している状況です。ヨシについては、震災時に消失しなかった群落から地下茎を伸ばして、隆起した土地に生育していると考えております。
- 30 頁、名取川だとシジミの分布域が上流に上がっているが、北上川では堰があつて上流に行けない状態になっていると考えられる。今後どのように取り組むか方向性を教えていただきたい。
- 北上大堰で塩水を止めて取水している状況です。地盤が隆起している状況ですので、モニタリングを継続している状況です。
- その他の生物相など、生き物に変化があつたか調べられているのでしょうか。
- 河川水辺の国勢調査を 5 年サイクルで実施しております。北上川、旧北上川、鳴瀬川など、震災後より細かく、地形、水質、生物環境について調査しております。

## 2. 北上川上流特定構造物改築事業（JR 衣川橋梁）事業評価

- 資料-2-3 の説明
- 9 頁の B/C の評価は計画当初に比べて実績があまりにも数値が違い過ぎる、計画時に色々な見積もりをきちんと行っていなければならないと思います。
- 治水事業は B/C がほとんど出ないものもあると思うが、それでもやらなければならない事業もあると思います。今後、評価方法の見直しも必要になるのではないかと。
- 本省からの指導もあり、最近では新規採択事業では計画段階評価を行う事になっております。今後は、厳格に見積もりを行う時代になってきていると思います。
- 改築前は鉄橋だったが、現在はコンクリートで、橋長が短いラーメン構造のため、周辺の地形になじんでいる。
- この事業は堤防整備なのか、JR 橋梁なのか。JR の橋梁が洪水にどう関わっているのか。
- JR と堤防が一体となって効果を発揮しているということです。JR 橋梁が改築されなければ、そこから氾濫しますので、堤防ないことと同じになります。JR の特定構造物事業という予算の枠組みに対しての評価ということでしたので、今後の説明の仕方は考えていきたいと思っています。
- 11 頁で宅地化が進み、土地利用が高度化したことが良いと記載されていますが、これまで、家が増えて、洪水が発生してということを繰り返してきたと思います。その辺で何かお話しがありましたらお願いします。
- 治水事業をして、その地域を安定していくというのは我々の使命でございます。計画規模

以上の洪水が発生する可能性、災害ポテンシャルが上がっていることを含めて住民の方々に説明させていただき、リスクも踏まえ理解させていただき、土地利用していただくことになると思われます。

以 上